

第4学年 体育科学習指導案

1 単元名 跳び箱運動

2 児童の言語活動及び活動目標

○跳び箱運動の技の基準を知り、自分の技のめあてを振り返りながら、今できる技や少し練習すればできる技に挑戦しよう。

3 教師の指導目標

○跳び箱運動の行い方を理解するとともに、助走から着地までをスムーズな動作で跳び箱を跳び越せるようにする。 【知識及び技能】

○自分の力に合った具体的なめあてを立て、自分に合った練習の場や方法を選ぶことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】

○友達と助け合って活動したり、場や器具の安全に気を付けたりしながら、進んで跳び箱運動に取り組むことができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
① 今できる技の助走から着地までの動作を安定させたり大きくしたりすることができる。	① 自身の課題を見付け、課題に合った練習の場や跳び越し方の系統に応じた練習方法を選んでいる。	① 跳び箱運動の楽しさを味わうために、課題を見付けて積極的に運動に取り組もうとしている。
② 今できる技から系統した技を練習し、新しい跳び越し方を身に付けることができる。	② 自身の課題やできばえについて考えたことを言語化し、自分の動きに生かそうとしている。	② 約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。 ③ 器械、器具の準備や片づけを進んで行っている。 ④ ルールやマナーを守り、安全に気を配って運動しようとしている。

5 主体性の評価基準

	①	②	③	④
A	課題を解決するために自分なりの練習方法を考えたり、新しい課題を考えたりして積極的に運動に取り組もうとしている。	約束を守るだけでなく、友達に技のできばえを伝えたり練習方法を紹介したりしながら技の練習に取り組んでいる。	器械、器具の準備や片付けを進んで行い、練習する技に応じて器械や器具を調整している。	ルールやマナーを守り、安全に気を配って運動するだけでなく、友達に声をかけながら活動することができている。
B	跳び箱運動の楽しさを味わうために、課題を見つけて積極的に運動に取り組もうとしている。	約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。	器械、器具の準備や片付けを進んで行っている。	ルールやマナーを守り、安全に気を配って運動しようとしている。
C	明確な課題を決めずに練習に取り組もうとしている。	約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしていない。	器械、器具の準備や片付けをしていない。	ルールやマナーを守っておらず、安全に配慮していない。

6 単元について

跳び箱運動は、今できる跳び越し方でより大きくきれいに跳び越したり、少し練習すればできそうな跳び越し方に挑戦したりすることが楽しい運動である。より大きくきれいにするためには、体全体を使ったり、空間を意識したりするなど基準を明確にすることが必要だと考える。また、少し練習すればできそうな跳び越し方も、自身で適切な練習場所や練習方法を見つけてできるようにしていくことが必要であると考えます。

そこで本単元では、自身の言葉で自分になりたい姿（単元のゴール）を設定し、毎時間の取り組みの様子や技のできばえに関する記述が表出するようなワークシートを活用していくことを言語活動として設定する。自分になりたい姿に向かって練習を行う際、つまずいてしまったり、目標を再設定したりすることが予想される。なぜできないのか、今どんな場でどんな練習をしているのかを学習カードに言語化することで、自身のつまずきに気付くことにつながるはずである。また、教師はその学習カードを見ながら、練習する場や練習方法が適切かどうかアドバイスをすることで、児童の学習を調整する力を養うことができると考える。できるようになったかを振り返る際にも、できばえの基準を基にした記述が見られれば、児童が何を意識して技の練習に取り組んでいたかを見取ることができるはずである。

7 学習活動と内容

(1) 学習過程

	1	2	3	4	5	6
		つながる運動				
0 ↑ ↓ 45	オリエンテーション	めあて① 今できる技を安定させ、より大きくきれいに跳び越して楽しむ。		めあて① 今できる技を安定させ、より大きくきれいに跳び越して楽しむ。		
		めあて② 少し練習すればできそうな技に挑戦して楽しむ。		めあて② 少し練習すればできそうな技に挑戦して楽しむ。		
知・技		①	①		②	②
思・判・表		②		②	①	
態度	①③	④	①	②		③

(2) 学習活動と内容

はじめ	<p>1 オリエンテーションをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいや学習過程を理解し、学習の進め方の見通しをもつ。 ○学習のルールやマナー、用具の準備や片付けなど、場の安全について理解する。 ○学習カードや資料の使い方について理解する。 ○準備運動や資料の使い方について理解する。 ○学習中のコミュニケーションの取り方、声のかけ方について確認する。 ○自分の持ち技を確認し、めあてを設定する。 <p>◇跳び箱運動の楽しさを味わうために、課題を見付けて積極的に運動に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度①】</p> <p>◇器械、器具の準備や片づけを進んで行っている。 【主体的に学習に取り組む態度③】</p>	
	学習活動と内容	教師の支援・評価
なか①	<p>1 学習の場づくりをして準備運動をする。</p> <p>2 主運動につながる運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かえるの足打ち ・うさぎ跳び ・跳び乗り、跳び下り <p>3 めあて①を確認する。</p>	<p>○安全に気を付けて、協力して行うよう声をかける。</p> <p>◇ルールやマナーを守り、安全に気を配って運動しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度④】</p> <p>○一つ一つの動きがどの技につながるのかを意識させながら行う。</p> <p>○つながる運動の時間から、着手や姿勢を意識して行えるように声をかける。</p>
	<p>めあて① 開脚跳びを安定させたり、より大きく跳び越したりして楽しむ。</p>	

<p>4 開脚跳びのできばえを確認し、気を付けるポイントを学級で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助走 →安定して跳び越せる速さで ・踏み切り →両足そろえる ・第一空間 →腰を高く上げる ・着手 →跳び箱を後ろに押す、両手で跳び箱を力強く突き放す ・第二空間 →遠くに ・着地 →膝を曲げて、ピタッと着地する。 <p>5 活動を始める。 【予想される児童の活動とできばえ】</p> <p>○開脚跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定して跳び越せる速さで助走を行う。 ・踏み切りを両足そろえて跳び越す。 ・第一空間を大きくして跳び越す。 (腰を高く上げる。) ・足を広げて大きく跳び越す。 ・跳び箱を後ろに押すように、両手を着く。 ・両手で跳び箱を力強く突き放し、第二空間を大きくして遠くに着地する。 ・膝を曲げて、ピタッと着地する。 <p>6 中間の振り返りを行う。</p> <p>7 自分のできばえに応じて、練習の場を選択し、活動を楽しむ。</p> <p>○跳び乗り、跳び下りの場（各跳び箱）</p> <p>○踏み切りの場</p> <p>○ステージ腰上げの場</p> <p>○突き放しの場 ○ギガタブの場</p> <p>○タイムシフトカメラ</p>	<p>○教師の跳び方を見て、どんな跳び方をすれば技を安定させたり、より大きく跳び越したりすることができるか話し合う。</p> <p>○できばえ表に学級で気付いたできばえを記入し、練習時にできばえを意識しながら活動できるようにする。</p> <p>○技を安定させたいのか、技を大きくしたいのかを確認し、できばえのどこを意識して練習するかイメージをもてるようにする。</p> <p>◇自身の課題やできばえについて考えたことを言語化し、自分の動きに生かそうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【思考力・判断力・表現力等②】</p> <p>○技を大きく、きれいにするための方法がわからない児童には、できばえ表やギガタブの手本の動画を視聴するよう促し、自分の課題を解決できるよう支援する。</p> <p>○技を行った児童は、安全の確認をして、次の児童に合図を送り、友達の技を見るよう指導する。</p> <p>○運動が苦手な児童や自分の力で課題を解決することが難しい児童には、適宜アドバイスをし、練習方法を選択できるように支援する。</p> <p>◇技のできばえを意識して、開脚跳びを大きく、きれいにすることができる。 【知識・技能①】</p> <p>○できばえを意識して練習できていた児童を取り上げて称賛し、新しく出てきたできばえは表に記入する。</p> <p>○腰が上がらない、手の突き放しができないなど、児童の要望に応じて場を追加する。</p> <p>○できばえを意識して練習しているか児童の取り組みの様子を観察し、練習方法に迷っていたり目的が不明瞭なまま練習したりしている児童がいる場合は助言する。</p> <p>○技を安定させたり、より大きくしたりすることができる児童がいれば、称賛しながら児童を観察する。</p>
--	---

	<p>8 振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見つけたコツや練習方法を伝え合い、全体で共有する。 ○今日の成果について振り返り、次時のめあてや学習内容を考える。 <p>9 後片付け・整理運動をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○開脚跳びのできばえを意識してより大きく、きれいにできている児童に試技をさせ、全体で技のポイントを確認したり、称賛したりする。 ○次時は開脚跳びだけでなく、台上前転（回転系の技）やかかえこみ跳び（他の切り返し系の技）などの技にも挑戦できることや、本時に確認したできばえを意識しながら他の技も練習していくことを伝える。
	<p>1 学習の場づくりをして準備運動をする。</p> <p>2 主運動につながる運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かえるの足打ち ・うさぎ跳び ・跳び乗り、跳び下り <p>3 めあて①を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○安全に気を付けて、協力して行うよう声をかける。 ◇ルールやマナーを守り、安全に気を配って運動しようとしている。 <p style="text-align: center;">【主体的に学習に取り組む態度④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一つ一つの動きがどの技につながるのかを意識させながら行う。 ○つながる運動の時間から、着手や姿勢を意識して行えるように声をかける。
な か ①	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて① 今できる技を安定させたり、より大きく跳び越したりして楽しむ。</div>	
	<p>4 自分の課題に応じて、練習の場を選択し、活動を楽しむ。</p> <p>【予想される児童の活動とできばえ】</p> <p>○開脚跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定して跳び越せる速さで助走を行う。 ・踏み切りを両足そろえて跳び越す。 ・第一空間を大きくして跳び越す。（腰を高く上げる。） ・足を広げて大きく跳び越す。 ・跳び箱を後ろに押すように、両手を着く。 ・両手で跳び箱を力強く突き放し、第二空間を大きくして遠くに着地する。 ・膝を曲げて、ピタッと着地する。 <p>○台上前転</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰を高く上げる。 ・まっすぐ回れるように練習する。 ・着地をピタッと止まれるようにする。 ・膝をのばして回ってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○できばえの確認をし、自分のめあてに合った活動ができるよう支援する。 ◇自身の課題を見付け、課題に合った練習の場や跳び越し方の系統に応じた練習方法を選んでいる。 <p style="text-align: center;">【思考力・判断力・表現力等①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○技を大きく、きれいにするための方法がわからない児童には、系統表やギガタブの手本の動画を視聴するよう促し、自分の課題を解決できるよう支援する。 ○技を行った児童は、安全の確認をして、次の児童に合図を送り、友達の見よう指導する。 ○運動が苦手な児童や自分の力で課題を解決することが難しい児童には、適宜アドバイスをし、場や練習方法を選択できるよう支援する。 ○友達に積極的にアドバイスできている児童がいれば称賛する。 ○助走や跳び越し、回転の際に怪我をしないように安全に十分気を付けるよう声をかける。

<p>なか か ①</p>	<p>○かかえこみ跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踏み切りで高く跳ぶ。 ・跳び箱と水平になるように跳ぶ。 ・縦にして跳んでみる。 ・着地でピタッと止まれるようにする。 <p>5 中間の振り返りを行う。</p> <p>6 自分の課題に応じて、練習の場を選択し、活動を楽しむ。</p> <p>○跳び乗り、跳び下りの場（各跳び箱）</p> <p>○踏み切りの場</p> <p>○ステージ腰上げの場</p> <p>○突き放しの場</p> <p>○ギガタブの場</p> <p>○タイムシフトカメラ</p> <p>7 振り返りを行う。</p> <p>○見つけたコツや練習方法を伝え合い、全体で共有する。</p> <p>○今日の成果について振り返り、次時のめあてや学習内容を考える。</p> <p>8 後片付け・整理運動をする。</p>	<p>○今できる技のできばえを意識してより大きく、きれいにできている児童に試技をさせ、全体で技のポイントを確認したり、称賛したりする。</p> <p>○できばえを意識して練習しているか児童の取り組みの様子を観察し、練習方法に迷っていたり目的が不明瞭なまま練習したりしている児童がいる場合は助言する。</p> <p>○技を安定させたり、より大きくしたりすることができている児童がいれば、称賛しながら児童を観察する。</p> <p>◇技のできばえを意識して、今できる技を大きく、きれいにすることができる。 【知識・技能①】</p> <p>○技のできばえを意識してより大きく、きれいにできている児童に試技をさせ、全体で技のポイントを確認したり、称賛したりする。</p> <p>○次時はめあて①を踏まえて、めあて②である「少し練習すればできそうな技」についても挑戦できることを伝える。</p>
<p>なか か ②</p>	<p>1 学習の場づくりをして準備運動をする。</p> <p>2 主運動につながる運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かえるの足打ち ・うさぎ跳び ・跳び乗り、跳び下り <p>3 めあて①を確認する。</p> <div data-bbox="193 1787 1382 1850" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて① 今できる技を安定させたり、より大きく跳び越したりして楽しむ。</p> </div> <p>4 自分の課題に応じて、練習の場を選択し、活動を楽しむ。</p>	<p>○一つ一つの動きがどの技につながるのかを意識させながら行う。</p> <p>○つながる運動の時間から、着手や姿勢を意識して行えるように声をかける。</p>

<p>【予想される児童の活動とできばえ】</p> <p>○開脚跳び（大きな開脚跳び）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定して跳び越せる速さで助走を行う。 ・踏み切りを両足そろえて跳び越す。 ・第一空間を大きくして跳び越す。（腰を高く上げる。） ・足を広げて跳び越す。 ・跳び箱を後ろに押すように、両手を着く。 ・両手で跳び箱を力強く突き放し、第二空間を大きくして遠くに着地する。 ・膝を曲げて、ピタッと着地する。 ・跳び箱の前にゴム紐を張って練習する。 <p>○台上前転</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰を高く上げる。 ・まっすぐ回れるように練習する。 ・着地をピタッと止まれるようにする。 ・膝をのばして回ってみる。 <p>② ○かかえこみ跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踏み切りで高く跳ぶ。 ・跳び箱と水平になるように跳ぶ。 ・縦にして跳んでみる。 ・着地でピタッと止まれるようにする。 <p>5 中間の振り返りを行う。</p>	<p>○できばえの確認をし、自分のめあてに合った活動ができるよう支援する。</p> <p>○技を大きく、きれいにするための方法がわからない児童には、系統表やギガタブの手本の動画を視聴するよう促し、自分の課題を解決できるよう支援する。</p> <p>○技を行った児童は、安全の確認をして、次の児童に合図を送り、友達の技を見るよう指導する。</p> <p>○運動が苦手な児童や自分の力で課題を解決することが難しい児童には、適宜アドバイスをし、場や練習方法を選択できるよう支援する。</p> <p>○助走や跳び越し、回転の際に怪我をしないように安全に十分気を付けるよう声をかける。</p> <p>◇自身の課題を見付け、課題に合った練習の場や跳び越し方の系統に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p style="text-align: right;">【思考力・判断力・表現力等①】</p> <p>◇約束を守り、友達と助け合って技の練習をしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度②】</p> <p>○今できる技のできばえを意識してより大きく、きれいにできている児童に試技をさせ、全体で技のポイントを確認したり、称賛したりする。</p> <p>○めあて②で取り組むことを確認する。</p>
<p>めあて② 今できる技を繰り返したり組み合わせたり、もう少しでできそうな技に挑戦したりして楽しむ。</p>	
<p>6 自分の課題に応じて、練習の場を選択し、活動を楽しむ。</p> <p>○跳び乗り、跳び下りの場（各跳び箱）</p> <p>○踏み切りの場</p> <p>○ステージ腰上げの場</p> <p>○突き放しの場</p> <p>○ギガタブの場</p> <p>○タイムシフトカメラ</p>	<p>○できばえを意識して練習しているか児童の取り組みの様子を観察し、練習方法に迷っていたり目的が不明瞭なまま練習したりしている児童がいる場合は助言する。</p> <p>○運動が苦手な児童やもう少しでできそうな児童には補助をする。</p> <p>○児童の要望に応じて場を追加する。</p> <p>○友達へ積極的にアドバイスしている児童がいれば称賛する。</p>

<p>○開脚跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱にまたがって、ついた両手で跳び箱を後ろに押す。 ・着手、着地の場所に印を置いて行う。 <p>○水平跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両足をそろえて勢いよく踏み切る。 ・足を水平になるように振り上げ、腕を伸ばして跳び箱の遠くに両手を着く。 <p>○台上前転</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰を高く上げる。 ・まっすぐ回れるように練習する。 ・着地をピタッと止まれるようにする。 ・膝をのばして回ってみる。 ・跳び箱の上にマットを敷いて練習する。 <p>○かかえこみ跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踏み切りで高く跳ぶ。 ・跳び箱と水平になるように跳ぶ。 ・縦にして跳んでみる。 ・着地でピタッと止まれるようにする。 ・跳び箱の上に跳び上がる。 ・ロイター板を使ってステージに上がる。 <p>○あおむけ跳び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイター板を使って、片足で踏み切り、体を投げ出す練習をする。 ・2つ並べた跳び箱の間を両足をそろえて跳ぶ練習をする。 <p>7 振り返りを行う。</p> <p>○見つけたコツや練習方法を伝え合い、全体で共有する。</p> <p>○今日の成果について振り返り、次時のめあてや学習内容を考える。</p> <p>8 後片付け・整理運動をする。</p>	<p>○アドバイスをする際には、系統表や技のできばえ表のポイントを意識するよう促す。</p> <p>○学習資料や掲示資料を用いて、技のできばえを確認するよう声をかける。</p> <p>○もう少し練習すればできる技に取り組む際、安全に十分気を付けるよう声をかける。</p> <p>○難しい技に挑戦してつまずいている児童へは、系統表を見て一つ前の技や、技につながる練習ができる場を示すことで支援する。</p> <p>○練習の場でできるようになったら、通常の跳び箱で取り組むよう声をかける。</p> <p>○練習の場が安全かどうか確認するよう指導するとともに、教師も常に安全に配慮しながら見るよう心掛ける。</p> <p>○技のできばえを意識してより大きく、きれいにできている児童に試技をさせ、全体で技のポイントを確認したり、称賛したりする。</p> <p>◇自身の課題やできばえについて考えたことを言語化し、自分の動きに生かそうとしている。</p> <p style="text-align: right;">【思考力・判断力・表現力等②】</p> <p>◇器械、器具の準備や片づけを進んで行っている。</p> <p style="text-align: right;">【主体的に学習に取り組む態度③】</p>
<p>ま</p> <p>と</p> <p>め</p>	<p>○友達と協力して活動したり、場や器具の安全に気を付けたりしながら、進んで跳び箱運動を楽しむことができたかを確認する。</p> <p>○自分の課題を、系統表やできばえを意識しながら考え、その技のために必要な場や練習方法を自分で考えて主体的に活動に取り組むことができたか。</p> <p>○自分の技のできばえや技のポイントとなる動きを学習カードのめあてや振り返りに言語化することができ、自分の技に生かしたり、友達にアドバイスすることができたか。</p>

9 研究の視点

研究主題

主体的・対話的で深い学びを通して、
自ら考え、行動できる力を身に付けた子どもの育成

本単元において、児童が「主体的・対話的で深い学び」を実現した姿を「技の習得に必要な技能を身に付けるために適した場を選択し、繰り返し技がよりよくなるように練習したり、技のポイントを自身で確認しながら自分の動きに生かしたりするだけでなく、児童同士で技のポイントを教え合うことができる姿」と考えた。そこで、児童が「主体的・対話的で深い学び」を実現するために必要な手立てとして以下の2点を実践した。

視点1 自ら考え、行動できる力を身に付けさせるための指導の工夫

○主体的・対話的で深い学びを実現するための技の規準の明確化

児童が自分のめあてに向かって主体的に学習に取り組むためには、技のできばえやポイントを児童同士が共通理解している必要がある。また、児童同士で技のできばえを確認する際にも、共通した技の規準がなければ、どのように声をかければよいのかわからなくなってしまふ。そこで、跳び箱運動における一連の動作やその動作の中で意識するポイントを明確にし、どこまでできればよいのかわかるよう、児童と技の規準の共通理解を図った。技はただ跳べればよいのではなく、「助走→踏み切り→第一空間→着手→空中姿勢→第二空間→着地」の一連の動作がスムーズにできることを前提とし、空間を「大きく」することができているか、流れが「きれいに」できているか意識することが大切である。また、踏み切りの足がそろっているか、空間を大きく使えているか、両手をそろえて着手できているかなど、一つ一つの動作の規準も明確に示す必要がある。学級全体で技の規準を意識付けしていくために、掲示物や学習カードで確認できるようにした。

○技のできばえや自分の技能を確認できる ICT 機器の活用

学習中、自分の技がどの程度できているか、できていてもより大きく、よりきれいにできているかを客観的に判断することは難しいと思われる。また、新しい技に挑戦する際、何を意識すればできるようになるのかを教師の試技や口頭での説明だけで理解できるとは限らない。児童一人一人が自分のめあてを達成するために自ら考え、行動するとなると、教え合いばかりではなく、自分自身で技のできばえをよくしたり、できる技を増やしていったりする必要がある。そこで、本単元では、自身の技のできばえを確認したり、技のポイントを学習中に確認できるようにしたりするために、ギガタブを活用した。今できる技のできばえを確認する際には、試しの場にギガタブを置き、タイムシフトカメラで自分が試した技のできばえをその場で確認できるようにした。その結果、自分に足りていないポイントを意識して次の試技に臨むことができた児童も見られた。また、新しい技に挑戦したいときや、正しい技の形を確認したいときは、ギガタブで手本の動画を視聴できるようにした。その結果、自分が必要だと感じたタイミングで技のポイントを確認でき、自分のペースで考えて行動する力が身に付いた児童も見られた。

視点2 「子ども主体の探求的な学び」を実現するための授業改善

○系統性を意識した場作りの工夫

本学級では、自分の技をできるように練習する際、どこで練習すればよいかわからず、意欲が下がってしまう児童が見受けられた。そこで、子どもたちが自分自身の力で、今自分にどこでどんな練習が必要なのかがわかるよう、系統性を意識した場作りを行った。例えば、台上前転をできるようにしたい

子のために、3段や4段の跳び箱を用意するだけでなく、マットを用意したり、低い段の跳び箱を用意したりするなど、段階的に必要な技能を身に付けることができるようにした。技ができないと感じても、その技の前の系統の技に戻って練習することを繰り返せば、どんな技でもできるようになるはずだと考えた。また、意図的に作られた場であれば、児童が何に困っているのかすぐに把握することができ、教師も支援しやすくなると考えた。さらに、どの場で練習すればよいのかがすぐにわかるよう、技の系統表を掲示するとともに、技ごとに適した場を示した。

○自分の考えやできばえを表出できるワークシートの工夫

子ども主体の探求的な学びを実現するために、毎時間の自分の取り組みやできばえが表出するようなワークシートを活用した。ワークシートを見て、教師はできばえの評価や振り返りのコメント等で継続して意欲的に練習に取り組めるよう支援した。児童は「このくらいできている」と現状を報告したり、「○○ができなくて困っている」というような悩みを書いたりして自分のできばえを言語化することで、今後必要な活動を教師と模索しながら、自身のなりたい姿に向かって意欲的に学習に取り組むことができた。中途半端にたくさんの技ができるよりも、少なくとも技が「大きく」「きれいに」なるよう、子どもたちは技の完成度を高められるように、探求的に学習に取り組む姿が見られた。同時に、体育が苦手な児童もたくさんの技ができるようにならなければいけないという思いを抱くことなく、安心して技のできばえをよりよくしようと活動する姿が見られた。